

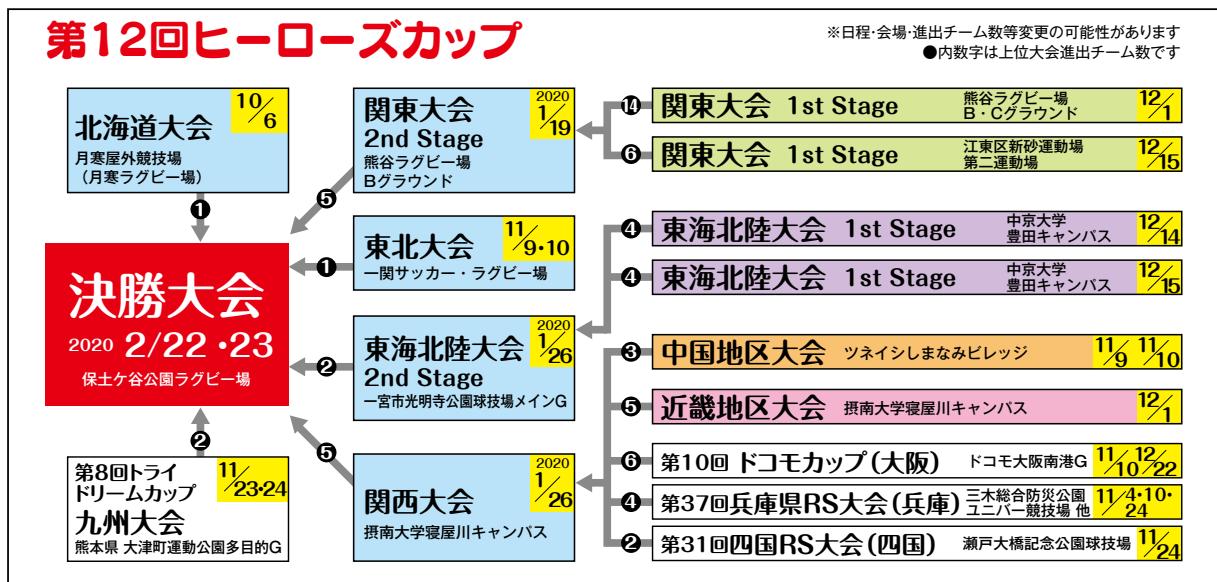
第12回 ヒーローズカップ 開催要綱

1. 主 催 NPO法人ヒーローズ
2. 共 催 神奈川県・横浜市
3. 主 管 ヒーローズカップ実行委員会
4. 後 援 スポーツ庁
(公財)日本ラグビーフットボール協会
関西ラグビーフットボール協会
大阪府ラグビーフットボール協会
神奈川県ラグビーフットボール協会
東大阪市
5. 目 的 ラグビー普及育成の一助として、ミニ・ラグビーの全国規模の交流試合を行い、ラグビーの試合を通じて健全な精神と身体を養うことを目的とします。参加する全ての子どもたちに、夢と希望と感動を与えられる大会を目指しています。
6. 日程/会場

北海道大会	2019年10月6日	月寒屋外競技場(月寒ラグビー場)
東北大会	2019年11月9日・10日	一関サッカー・ラグビー場
中国地区大会	2019年11月9日・10日	ツネイシしまなみビレッジ
関東大会(1st Stage)	2019年12月1日	熊谷スポーツ文化公園 B・Cグラウンド
	2019年12月15日	江東区新砂運動場 第二運動場
関東大会(2nd Stage)	2020年1月19日	熊谷スポーツ文化公園 Bグラウンド
東海北陸大会(1st Stage)	2019年12月14日	中京大学豊田キャンパス
	2019年12月15日	中京大学豊田キャンパス
東海北陸大会(2nd Stage)	2020年1月26日	一宮市光明寺公園球技場メイングラウンド
近畿地区大会	2019年12月1日	摂南大学寝屋川キャンパス
関西大会	2020年1月26日	摂南大学寝屋川キャンパス
決勝大会	2020年2月22日・23日	保土ヶ谷公園ラグビー場
7. 大会組織 (1) 本大会の開催に際しては、大会実行委員会を組織する。
(2) 大会実行委員会には、委員長、副委員長、委員、を任命する。
(3) 各大会毎に運営委員会を組織する。
(4) これらの組織をもって、円滑な大会運営を図ることとする。
8. 参加資格 (1) 公益財団法人日本ラグビーフットボール協会に2019年度のチーム登録が完了した各都道府県ラグビーフットボール協会所属のラグビースクールにおいて「プレーヤー」として2019年度の個人登録が完了した小学校6年生および5年生。
(2) 保護者が大会への参加を承諾した選手であること。また、大会参加にあたっては指導員等の引率者を必要とする。
(3) 出場チームから公益財団法人スポーツ安全協会の「2019年度スポーツ安全保険」への加入が完了した者。
9. 参加チーム (1) 1スクール1チームとする。
(2) 合同チームのエントリーを可能とする。

- (3) 北海道大会は北海道地方のチーム。
 東北大会は東北地方のチーム。
 関東大会は関東地方および近隣のチーム。
 近畿地区大会は、大阪・兵庫を除く近畿地方のチーム。
 東海北陸大会は、東海北陸地方のチーム。
 中国地区大会は中国地方のチーム。
 関西大会は、大阪推薦6チーム・兵庫推薦4チーム・四国推薦2チーム・近畿地区大会から5チーム・中国地区大会から3チームの計20チームで行う。
 ※関西大会には、大阪府からは11月・12月の大阪府の大会の上位6チーム。
 兵庫県からは兵庫県ラグビースクール大会の上位4チーム。
 四国からは四国ラグビースクール大会の上位2チームをそれぞれ推薦する。
 決勝大会は、関西大会5チーム、東海北陸大会2チーム、九州推薦2チーム、関東大会5チーム、東北大会1チーム、北海道大会1チームの計16チームで行う。

10. 競技方法 (1) 公益財団法人日本ラグビーフットボール協会制定の『平成30年改訂版 U-12 ミニラグビー競技規則』による。
 (2) 組み合わせは各大会毎に抽選にて決定する。
 (3) 試合時間は、各大会毎に異なるが、1日2～3ゲームを行い、1日の総ゲーム時間は60分を越えないものとする。
 (4) 平成29年2月1日に公益財団法人日本ラグビーフットボール協会から通達されたWR世界的試験実施ルール（北半球2017年7月1日施行）、および同じく平成29年7月22日に通達されたWR試験的ルール（北半球2017年8月1日施行）を適用して実施する。
11. 参加費 参加チームから大会運営費の一部として、各予選大会時に10,000円を徴収。
 決勝大会進出チームは決勝大会の参加費として上記とは別に10,000円徴収する。
12. スポーツ庁長官賞 決勝大会優勝チームへスポーツ庁より『スポーツ庁長官賞』を付与する。
13. その他 各大会毎にマッチドクターを配置する。負傷に対して応急処置は行うが、大会主催者が以降の責任は負わない。マッチドクターに競技続行不可能と判断された場合、当該選手は当日の試合には出場することができない。
 選手の健康管理には十分注意すること。選手は健康保険証を持参すること。



第12回 ヒーローズカップ 実施規約

各大会への出場について

1. 出場チームの構成について

各大会（地区大会、決勝大会）出場に必要な選手以外のスタッフについては下記の通りとする。

(1) 大会に出場するチームのベンチ入りできるスタッフの構成は、以下の通りとする。

- ①試合責任者（必須） 1名 〈試合出場チームの責任者〉
- ②セーフティアシスタント（必須） 1名 〈セーフティアシスタント（SA）資格保有者〉
- ③監督・コーチ（任意） 任意 〈グラウンド（ベンチ）へ入る最大人数は各大会で規定する〉

(2) 大会運営の為に出場するチームは、下記の運営スタッフを選出するものとする。

- ①レフリー（随時） 1名 〈C級以上（大会によっては、運営側で手配する）〉
- ②アシスタントレフリー（随時） 1名 〈C級以上（大会によっては、運営側で手配する）〉
- ③競技補助役員（随時） 任意 〈競技役員の補助業務（第3AR、記録、ボールボーイ等）〉

尚、①②のレフリー資格保持者がいない場合は、出場申込み時にその旨を大会本部に伝えること。

競技に関する諸注意事項

2. 選手登録の方法

- (1) 各大会への出場選手登録は、「第12回ヒーローズカップ開催要綱」の「8. 参加資格」の(1), (2), (3)の要件を満たす者の中から人数制限なく登録できる。
- (2) ヒーローズカップへの出場推薦チームを選考する大会を含む各大会において、チームの移籍をして第12回大会の次の大会へ出場することは認めない。選手は、ヒーローズカップへの出場推薦チームを選考する大会を含むどれかの大会で、最初に出場登録をしたチームで最後まで出場登録することとする。
- (3) 上記選手登録に疑義が生じた場合、大会実行委員会にて出場を取り消す場合がある。違反して選手登録又は出場をした場合、次回から当該チームの参加を認めないことがある。

3. 選手の交替・入替え

- (1) 選手の交替・入替えの際には、監督・コーチ又は選手自身が当該試合担当の競技委員に申し出、競技委員ならびにレフリーの指示に従って交替・入替えを行なう。
- (2) 一度の交替・入替えは3名までとする。但し後半開始時は交代・入替え人数の制限はない。
- (3) いったん交替により退いた選手の再出場も認める。

4. シンビン・退場（競技規則第10条等参照）

- (1) シンビン（一時的退出）となったプレーヤーは、ハーフウェイライン付近の所定の場所に待機しなければならない、レフリーが許可するまで、フィールド・オブ・プレイに入ってはならない。
- (2) シンビンの時間は3分間とし、ハーフタイムの時間は含まれない。
- (3) 同一試合で2回目のシンビンを受けた選手は、そのまま退場となりゲームに再出場することはできない。また、各大会共通で次の1試合は自動的に出場停止となる。
- (4) シンビンの累積による退場以外の事由（不行跡等）で退場となった選手は、各大会競技委員会で処分を決定する。なお、各大会共通で次の1試合は出場停止となる。

5. 試合前受付

- (1) 試合当日、各大会競技委員が指定する時間に試合責任者は代表者会議に出席し、出場選手およびスタッフに関して、事前登録通りであるかを報告すること。
- (2) 各大会運営委員会より当日必要な伝達を行うので、代理の者でなく必ず試合責任者本人が出席すること。
- (3) 代表者会議終了後、各大会のスケジュールにより、ドレスチェック・装身具のチェックをレフリー又は競技委員が行う。このドレスチェックを受けていない選手は試合に出場できない。
- (4) チームからレフリー、アシスタントレフリー、競技補助役員を選出した場合、必ず大会当日のブリーフィングに参加し、レフリー委員、競技委員に申し出、当日の割当を確認すること。

6. 競技時・ハーフタイム時の諸注意

- (1) 競技委員は、グラウンドの適切な位置に両チームのベンチエリアを設け、各チームにベンチの位置の指示をする。
- (2) 試合中チーム関係者は所定の場所に位置し、うろうろしないこと。ゲームの進行とともに移動して応援したり、指示をしないこと。
- (3) ベンチ内であってもチーム関係者は、試合中のプレーヤーに対する指示を禁止とし、適切な応援を心がけること。
- (4) グラウンドへ水を持ち込む場合には安全な容器を用いること。（ビン等は不可）

7. 安全対策、脳震盪の報告義務、その他

- (1) 試合参加にあたっては、あらかじめ健康診断を受ける等、プレーヤーの健康管理に充分配慮すること。
- (2) 脳震盪を起こした疑いのある、あるいは脳震盪と診断された選手は退場させる。試合中に脳震盪で退場したプレーヤーが出た場合には、チーム責任者は所定の用紙によって報告の義務がある。
- (3) 脳震盪を起こした疑いのある、または、脳震盪と診断された選手は、必ず“IRB脳震盪ガイドライン”にある「段階

- 的競技復帰プロトコル（GRTP）」に従って復帰すること。
- (4) 全てにおいて「安全」が第一優先順位であることを銘記すること。
 - (5) 日本協会の「競技者個人登録（登録者傷害見舞金制度）」及び「スポーツ安全保険」の加入手続きに、漏れのないよう充分注意すること。
 - (6) インフルエンザ又は伝染性疾患と診断もしくは認められる選手は、各チームの責任において出場を辞退すること。
 - (7) レフリーは、選手の安全のために、プレイの継続が不可と認めたプレイヤーの出場を制限することができる。

プレイヤーの服装・ジャージの規定・ラグビーマナー

8. 服装の統一について

- (1) ジャージ・パンツ・ストッキングは、チーム全員統一されていることが基本ではあるが、コンバインドチームでの参加の場合、パンツ・ストッキングの統一までは求めない。
- (2) スパイクについて／非金属製の固定式スタッド及びブレードタイプのものとし、取替え式スタッドの使用は禁止する。
- (3) ジャージ、その他の用具に血液が付着した場合には、直ちに切り替えなければならない。ジャージの損傷、血液の付着に対応するためスペアージャージを準備すること。
- (4) プレイヤーは必ずヘッドギヤを着用すること。(U12 競技規則第4条3.c)
- (5) プレイヤーに合ったマウスガードを装着することを推奨する。
- (6) ロングタイツの着用は基本的に女子にのみ認められているが、アトピー対策等による場合は、競技委員の許可により男子にも着用を許すことがある。(事前申請が必要)
- (7) 指先を切った手袋のみ着用を許す。指先まで覆う手袋は着用できない。
- (8) ワールドラグビーの承認マークが付いたゴーグルであれば着用を認める。

9. プレイヤーの着こなし

- (1) 参加選手はラグビープレイヤーとしてふさわしい服装、身だしなみを心がける。
- (2) 選手は以下の着こなしを遵守すること。レフリーや競技委員から指摘される前に、各自、各チームで直すこと。
 - ①ストッキングはきちんと上げる。試合中にずり落ちないようにテープ等できちんと止めること。
 - ②パンツの上に出たジャージは、常に注意してパンツの中に入れる。
 - ③ジャージのエリを内側に折り込まない。
 - ④ジャージのソデを極端にたくし上げたり、テープで止めたりしない。
- (3) ドレスチェック時に、レフリー及び競技委員が服装、スタッド等の確認を行う。選手は、レフリーと競技委員の指示に従うこと。
- (4) ドレスチェックで不許可となったものを競技区域で着用していた場合には、その時点で「競技規則」第4条7により退場とするが、交代選手の出場を許可する。退場した選手は、服装を正したら、レフリーの許可を得て競技に復帰できるものとする。
- (5) 服装規定に関して不明な点は事前に各大会実行委員会まで問い合わせをする等、当日のドレスチェックの際にトラブルが起らないよう、事前徹底、再確認を充分しておくこと。

10. ラグビーマナー

- (1) レフリーへの批判、選手への感情的発言・暴言・セルフジャッジ等々非紳士の言動は厳禁する。
選手以外の監督・コーチ・その他スタッフ、保護者、応援団も同様に禁ずる。
試合中は、建設的な応援・励ましを心がけ、レフリー・両チームの選手への敬意と尊敬の念を忘れないこと。
- (2) 各大会の会場（グラウンド内、更衣室とグラウンドとの往復等を含む）では、選手、指導者、スタッフ、保護者等全員が公共空間でのマナー保持に充分注意すること。
- (3) ゴミ（グラウンド内ばかりでなく更衣室等のゴミも含む）は、会場内のゴミ箱に捨てず、必ず各自、各チームで持ち帰ること。チームはゴミ袋を用意して、すべてのゴミを持ち帰ること。
- (4) 会場内は、グラウンド、更衣室等、駐車場、その周辺区域を含めて、許可された喫煙場所がある場合を除いて全面禁煙とする。
- (5) 会場周辺の公道への違法駐車は厳禁する。

セーフティアシスタント

11. セーフティアシスタント（SA）について

- (1) SAは、試合前にマッチドクターと互いに確認を行い、試合中の連携を心がける。
- (2) SAは、必要に応じて試合中にグラウンドへ自由に入ることができる。
待機場所は自チーム選手席であるが、選手の安全を見守る限りは自由に動いてよい。ただし、声援やプレーの指示は絶対に行わない。(選手の安全確保を考慮した指示を除く)
- (3) SAは、各大会の競技委員の指示に従って、ピブス等、他のスタッフと区別できる服装を着用する。
- (4) 原則としてSAは、自チーム帯同のSAが必要だが、どうしても困難な場合、事務局（大会開催まで）、大会本部（大会当日）へ事前に相談すること。

第12回 ヒーローズカップ 安全対策規程

ヒーローズカップでは、安全を最優先とします。積極的に安全対策を行うことによって、危険の予知と予防、万が一の事故の際に適切な処置を出来る様にするため、各大会に関する安全対策規程を下記の通り定めることとします。

1. 安全対策に必要な人員

(1) 安全に試合を進行し、負傷や事故にすぐに対応できるように、下記の通りの安全スタッフを配置すること。

① マッチドクター

競技場の隣接する2グラウンドに対して、1名以上配置する。

協会登録の医務委員またはセーフティアシスタント (SA) 資格保有者が望ましい。

実行委員会によりマッチドクターの補助として、柔道整復師、トレーナーなどの資格者を配置することがある。

② セーフティアシスタント (SA)

各試合各チームから1名、セーフティアシスタント (SA) 資格保有者を選出する。

④ 競技委員

各試合に1名以上。安全なゲーム進行を見守る。

2. 試合環境の整備

(1) 水源の確認 (水道水および飲料水のチェック)。

(2) 氷の準備。

(3) 救急バッグの準備。

マッチドクターと事前に確認を取り、運営側で準備をする。

〈内容物の目安〉テーピング用テープ、三角巾 (4枚以上)、はさみ (2本以上)、体温計 (2本以上)、綿花、単ガーゼ、消毒セット (ディスポ10本以上)、絆創膏、包帯、バンドエイド、コールドスプレー、ネット、弾力包帯 etc.

(4) ドクター待機場所の準備

医務室のない会場では、医務テントの設置が望ましい。

救急バッグ・水・氷・AED (リースも可) を設置。

(5) 救急受け入れ医療機関の事前確認

当日、大会が行われることを付近の医療機関に事前連絡をして、救急受け入れ先を確認しておく。

(6) グラウンドの準備

複数グラウンドで同時に行う時は、競技区域の間隔を充分空ける。(タッチラインの共有はしない)

必ず試合前に、グラウンドおよび周辺を競技委員その他スタッフでチェックする。

3. 参加チームの安全対策について

(1) 各チームに安全対策委員 (安全推進講習会受講者または、セーフティアシスタント (SA) 資格保有者または、試合責任者) を選出し、チームの安全対策を実施すること。

(2) セルフチェックシートの利用や、健康診断の実施等、選手の体調管理を普段から行い、試合当日は保護者から選手の健康状態をヒヤリングして、選手の健康状態を充分に把握しておくこと。

(3) 体調に異常所見が認められる選手、体調不良の選手を出場させない。

(4) 安全第一で正しい指導を心がけること。危険なプレーにつながる言動を行わないこと。

(5) ラグビーに適した服装で試合に参加し、爪のチェックを行う。

(6) 試合後および試合の合間は、防寒具等を着用し体を冷やさないようにする。

(7) ウォームアップ・クールダウンを充分に行わせ、障害の予防をする。

(8) 安全プレーを推進し、タックルの基本姿勢、ラック・モールの姿勢を、充分に指導しておく。

4. レフリー

(1) 安全なレフリングを最重要とし、危険な反則に対しては特に厳しく対処する。

(2) 積極的にプリベントコールを行い、反則と危険を未然に防ぐ。

(3) コンタクトプレーにおいてバインドをするように指導する。ノーバインドによるコンタクトに対しては、事前に声をかけて予防し、もし発生したら単に反則を取るだけでなく、事後によく注意する。

(4) 体調不良、怪我等で継続不可と判断する選手には、プレーを続行させない。

<レフリングの指針>

1. 安全を最優先

スキルレベルが向上し、最新のスキルをコーチングされたプレーヤーが増えてきたとしても、小学生の大会として最重要である「安全性」を重視します。危険なプレーや危険な結果が予想されるプレーに対しては、トップレベルで容認されているプレーであっても、レフリーは笛を吹いてプレーを止め、ペナルティの判定またはイエローカード以上の対処をします。体格差が原因で危険な状態になる、または予想される場合も、「安全性」を最重要と考え、レフリングを実践します。

2. 厳格な判定

意図的に反則をし、ゲームを有利に進めて勝ちにつなげる行為は、小学生の大会ではあってはならないと考えます。意図的な反則、反則の繰り返しに対してレフリーは厳しく判定し対処します。また、レフリーに対する暴言についても、プレーヤーだけでなく競技規則第10条8にもある通り、コーチやチーム関係者についても同様に厳しく対処します。

3. コンテストの正確な判定

安全を最優先し、不行跡・不当なプレー・意図的な反則を厳格に判定し、コンテストの正当性を追求していきます。

安全とコンテストプレーのバランスを保ちながら判断、判定を正確に行い、楽しくプレーが継続できるようにレフリングを行います。

<レフリングガイドライン>

競技規則は、平成30年改訂版 U-12 ミニラグビー競技規則に準じる。

1. 危険なプレーについて（安全のために）

安全を最優先したゲームコントロールを行う。

- ① いわゆる「亀ラック」＝スクイーズボール（U19.第15条15.5）→直ちにペナライズした上で注意をする
- ② ローヘッド（U19.第10条10.4 (t)）→直ちにペナライズした上で注意をする
- ③ 危険なプレー（第9条11-25）→直ちにペナライズした上で注意をする

2. キックオフ

正しいキックオフの遂行と、プレーが止まったときに素早い判定を行う。

- ① キックオフしたボールが5mを越えない→センタースクラム
- ② キックオフしたボールが直接タッチに出る→センタースクラム（ラインアウトのオプション有り）
- ③ ドロップキックで正しく蹴らなかった→やり直し→状況に応じてセンタースクラム（フルラグビーのルールを基に）

3. スクラム

正しいスクラムの遂行と、スクラム解消時の正確な判定を行う。

- ① オフサイドの解消→ハーフバックが手または足でボールに触れたとき
（ハーフバックが足を使って、投げやすい位置に動かすことも触れたと見なす）
- ② ハーフバックがボールに触る前に、攻撃側がオフサイドラインを越えて走り込みボールをもらう
→オフサイドのペナルティを正しく判定
- ③ ゴールから5m未満では形成されない（ラインアウト・ペナルティも同様）
- ④ スクラムが終了するまでバインドさせる。（第20条20.1 (f)）
→注意してもバインドを外して飛び出したらペナルティ（第20条20.1 (a) を適用）
- ⑤ ボールインの確認・徹底→転がして入れるように指導
- ⑥ スクラムのフットポジションは平行であること→平行にとるように指導
- ⑦ スクラムのレフリーのコーリングは「クラウチ、タッチ、ホールド、エンゲージ」の4段階であること

4. ラインアウト

正しいラインアウトの遂行と、ラインアウト解消時の正確な判定を行う。

- ① クイックスローは認めない
- ② バックスのオフサイド解消→ラインアウトが解消（終了）したとき
- ③ 8mを越えて投げ入れる（ラインアウトに並んでいるプレーヤーが誰も触れていない場合）→やり直し
- ④ 先頭に立つプレーヤーが、ボールが3m投げ入れられることを妨げる→8mでフリーキック

- ⑤ ハーフバックがキャッチせずにワンバウンドになった場合 → ハーフバックが触れた時点で解消
- ⑥ ワンバウンドのボールをラインアウトプレーヤーが触れたとき → その時点で解消
- ⑦ タップしたボールがラインオブタッチから5mを越えたとき → その時点で解消
- ⑧ ハーフバックとラインアウトプレーヤーがポジションチェンジするのは可能。
ただし、スロワーがボールを投げ入れ、ラインアウトが開始されるときには、二人並んでいること。

5. ペナルティキック

キック時に特に注意して、正しいペナルティキックを遂行する。

- ① ボールを地面に置かないで蹴る → やり直し
- ② キックは明確に → いずれかの方向に蹴り進めること
- ③ 勢いよく走り込んでボールをもらうプレー → PKだがキックしてからスタートするように注意
- ④ ノット5mの2度目は、間をおいてポイントを示し5mを取らせてからプレーさせる

6. キック

一般のプレー中のキックに対し、正しい判定を行う。

- ① 地上にあるイーブンボールを意図なく蹴る行為（いわゆる「フライキック」U12競技規則第9条20 (h)） → ペナルティ
- ② ダイレクトタッチ → 10mラインの外側から蹴った場合は、蹴った地点でスクラム。(U12競技規則第18条)
- ③ テイクインバックの適用 → あり（シニアと同じルール）蹴った地点でスクラム。
- ④ ハーフタイムやフルタイムで外へ蹴り出す → OK

<ゲームマネジメント>

●ブリーフィング：キャプテン会議で、全チームまとめて行う。

- ・ゲームで気を付けて欲しいことを簡潔に伝える。
- ・安全第一、フェアプレー（正しくプレーする）、リスペクト（相手チーム）、ノーサイドの精神。
- ・グラウンド（ゴールライン、デッドボールライン等のマーカー）の確認
- ・キャプテンから、チームメンバーに伝えることを願う。

●ドレスチェック：大会スケジュールの中で全チーム順番に行う。

- ・爪チェック。
- ・スパイク（非金属の固定式およびブレードのみ）チェック。取り換え、アルミ、金属は、禁止。
- ・WR公認ゴーグルの場合は着用を認める。

●試合の進行

- ・レフリーと両チームが、一緒にピッチに入場し挨拶する。
- ・試合時間はタイムキーパー制。
- ・キックオフ前半・後半の開始は、本部からのキックオフの合図後。
- ・ノーサイドは本部からの合図の後、デッドになった時点。ロスタイムなし。
- ・トライ後のコンバージョンキックは決勝大会以外なし。
- ・両チームのジャージが似ている場合は、競技委員とレフリーがチームと相談のうえ対応を決定。
- ・ノーサイド後は、整列挨拶し、グラウンドから速やかに出る。
- ・選手交代は、第3AR・競技委員を通して行う。
- ・スコアカードは、本部からの大会用のものを使い、必ずスコアチェックを行うこと。
- ・プレーヤーに積極的に声かけを行ない、良いプレーを引き出す。
- ・可能なら、ARからレフリーにコメント（良かった点・悪かった点）を共有し、次につなげる。

●アフターマッチファンクションの実施

- ・レフリーからの講評
- ・キャプテンによる相手に対する感想、担当コーチからの講評
- ・握手

第12回ヒーローズカップに関する 個人情報及び肖像権に関わる取扱いについて

NPO法人ヒーローズ

特定非営利法人ヒーローズは、(以下「NPO法人ヒーローズ」という。)は、大会参加申込書等を通じて取得する個人情報及び肖像権の取扱いに関して以下の通り対応します。

1 参加申込書に記載された個人情報の取扱い

- (1)大会プログラムに掲載することがあります。
- (2)競技会場内でアナウンス等により紹介されることがあります。
- (3)競技会場内外の掲示板等に掲載されることがあります。
- (4)組合せ等の内容が大会関連ホームページに掲載されることがあります。
- (5)氏名・学校名・学年については、報道の正確性を期すため、大会開催前に報道機関に提供することがあります。
- (6)大会スポンサーに対して、提供することがあります。

2 競技結果(記録)等の取扱い

- (1)NPO法人ヒーローズ、又はこれらに認められた報道機関、大会スポンサー等により、新聞・雑誌及び関連ホームページ等で公開されることがあります。
- (2)大会プログラム掲載の個人情報とともに、ヒーローズが作成する大会報告書(以下「報告書」という。)に掲載されることがあります。
- (3)記録、優勝及び上位入賞結果(記録)等は、次年度以降の大会プログラムに掲載されることがあります。

3 肖像権に関する取扱い

- (1)NPO法人ヒーローズに認められた報道機関や大会スポンサー等によって撮影された写真が、新聞・雑誌・報告書及び関連ホームページや、TVCM等で公開されることがあります。
- (2)NPO法人ヒーローズに認められた報道機関や大会スポンサー等によって撮影された映像が、中継・録画放映及びインターネットにより配信されることがあります。また、DVD等に編集され、配布されることがあります。
- (3)この他、NPO法人ヒーローズに許可を受けた写真撮影企業等によって撮影された写真等が販売されることがあります。

4 NPO法人ヒーローズの対応

- (1)取得した個人情報を前記利用目的以外に使用することはありません。
- (2)**参加申込書の提出により、前記取扱いに関する御承諾をいただいたもの**として対応させていただきます。
- (3)大会役員、競技役員、運営委員、その他各種委員や補助員、ヒーローズカップに関する契約をしている者、大会運営関係者及び会場に来られた観客の皆様につきましては、前記取扱いに関する御承諾をいただいたものとして対応させていただきます。

第12回ヒーローズカップ 全ての大会でベンチからの指示禁止を実施

Challenge

第12回ヒーローズカップの全ての大会で、キャプテンを中心に選手の主体性を促すため、**ベンチ及び観覧席からの指示は一切禁止**とさせていただきます。

ラグビーは本来、試合中の判断はゲームキャプテンが行います。監督・コーチは観客席から今まで教えてきたことを発揮してくれるであろうと信じながらゲームを見届けます。それは決してトップリーガーや大学生だけではなく、小学生でもグラウンドにいざ立てば責任をもって判断し、プレーしてくれるはずです。

大人が信じてあげましょう。

『子どもたちの可能性を』『子どもたちのひらめきを』

ヒーローズカップは子どもたちの【主体性】を応援します。

今回、ヒーローズカップの規約・レフリーガイドを定めるにあたって、出来る限り安全で公平であることを念頭において作成しました。ミニラグビーのレベルが上がるにつれて子どもたちのディシプリンも高くなり、ルールを守ることの尊さを知って、ルールがラグビー憲章という法の精神から出来ていると感じていると思います。ラグビー憲章の重要な精神は、プレーをすることの楽しさ、ゲームを観ることの面白さを尊重するものです。それは選手の自主的なプレー選択や、ルールを守るディシプリン、相手へのリスペクトによって成立します。指導者の方々には、公平で平等にゲームをする機会を得た選手達の自主性を尊重し、選手が存分に楽しむことを温かく見守って頂きたいと思います。レフリー・競技委員をはじめ、私たち大会役員全員は、選手が思う存分プレーを楽しんで、指導者・保護者の方々が観て喜び、全ての人が心から感動する大会になってほしいと願っております。

ヒーローズカップ実行委員会

タッチライン際の大人たちへ

ラグビーは試合になれば選手がすべてを判断してプレーするスポーツです。だからこそ、教育的価値が高いと認められているのです。コーチの仕事は選手が自分達で判断してプレーできるように育て、導くこと。親や観戦者はそれを温かく見守る。それがラグビーです。近年、ラグビー王国ニュージーランドですら、子どもたちの試合での野次や罵声が問題になっています。現状を憂い、「Let Kids Be Kids」というキャンペーンが行われています。子どもは子どもでいさせてあげてほしい。ミスを叱り、レフリーに文句を言うのではなく、その奮闘をサポートし、楽しい思い出を残してあげてほしい。そんな願いが込められています。子どもたちはボールを持って走り、パスし、タックルすることが楽しくて仕方がないのです。仲間と協力して戦い、試合が終われば相手チームと友達になる。それは美しい思い出になります。その記憶の中に、ひどい言葉を刻みつけないでください。子どもたちは大人の態度を見ています。子どもたちの自主性を重んじ、レフリー、相手チーム、両チームのサポーター、すべてをリスペクトしながら、子どもたちをサポートしてください。それがラグビー精神なのですから。



ラグビージャーナリスト 村上 晃一 氏

京都府立鴨沂高校→大阪体育大学。現役時代のポジションは、CTB/FB。86年度、西日本学生代表として東西対抗に出場。87年4月ベースボール・マガジン社入社、ラグビーマガジン編集部勤務。90年6月より97年2月まで同誌編集長。出版局を経て98年6月退社し、フリーランスの編集者、記者として活動。

相手チームの健闘をたたえたエール交換

<キャプテン>

Three cheers for
スリー cheers フォー
ラグビーフットボールチーム

<キャプテン>

hip! hip!
ヒップ!
ヒップ!

<全員で>

フレイ!
hooray!

<キャプテン>

hip! hip!
ヒップ!
ヒップ!

<全員で>

フレイ!
hooray!

<キャプテン>

hip! hip!
ヒップ!
ヒップ!

<全員で>

フレイ!
hooray!

アフターマッチファンクション

さあ、
大きな声で、元気よく！